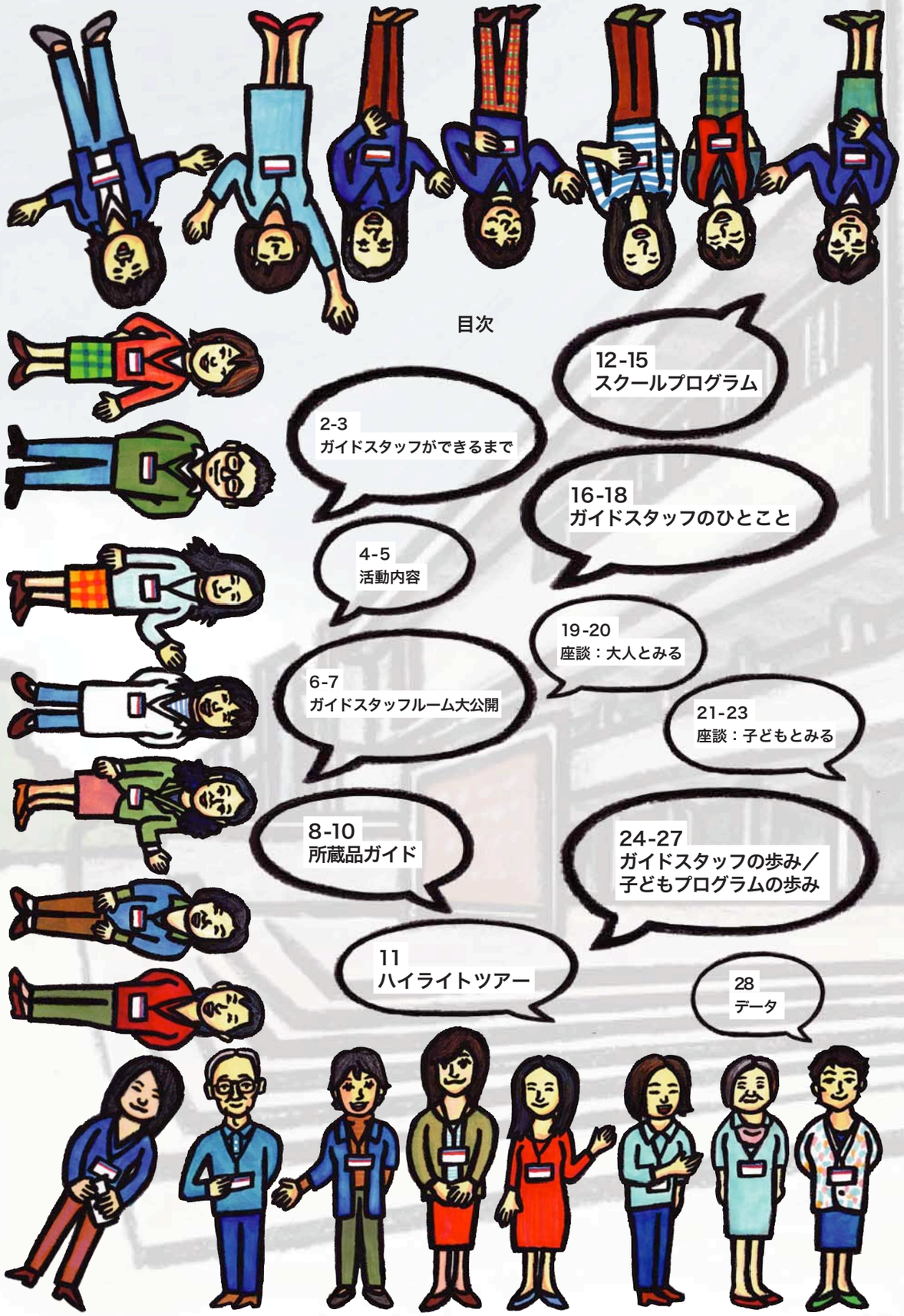
東京国立近代美術館解説ボランティア
MOMAT ガイドスタッフ活動の記録 2002-2011

トーキング・トーキンビ

The National Museum of Modern Art, Tokyo

1952-2012
60th Anniversary



目次

2-3
ガイドスタッフができるまで

4-5
活動内容

6-7
ガイドスタッフルーム大公開

8-10
所蔵品ガイド

11
ハイライトツアー

12-15
スクールプログラム

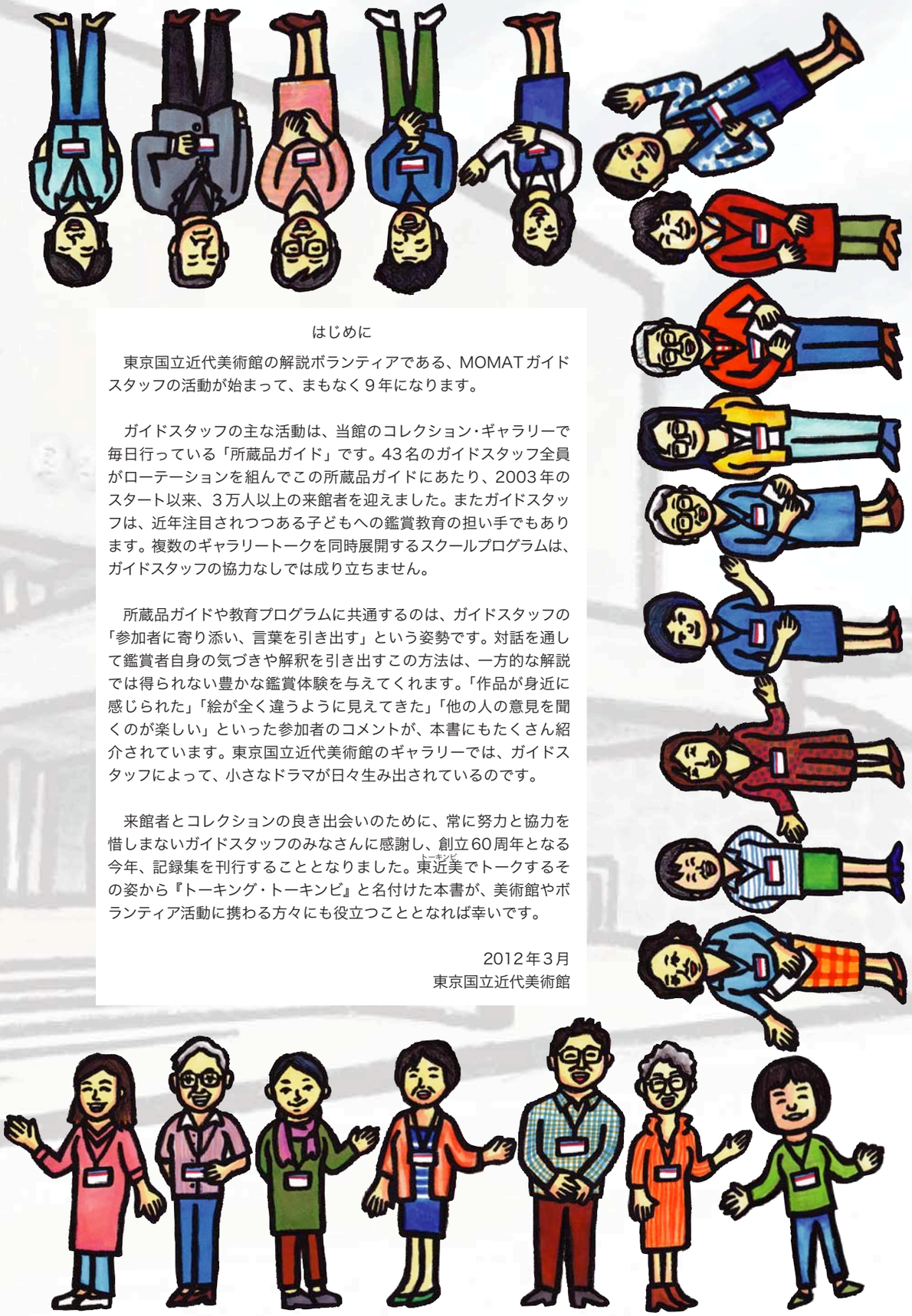
16-18
ガイドスタッフのひとこと

19-20
座談：大人とみる

21-23
座談：子どもとみる

24-27
ガイドスタッフの歩み／
子どもプログラムの歩み

28
データ



はじめに

東京国立近代美術館の解説ボランティアである、MOMATガイドスタッフの活動が始まって、まもなく９年になります。

ガイドスタッフの主な活動は、当館のコレクション・ギャラリーで毎日行っている「所蔵品ガイド」です。43名のガイドスタッフ全員がローテーションを組んでこの所蔵品ガイドにあたり、2003年のスタート以来、３万人以上の来館者を迎えました。またガイドスタッフは、近年注目されつつある子どもへの鑑賞教育の担い手でもあります。複数のギャラリートークを同時展開するスクールプログラムは、ガイドスタッフの協力なしでは成り立ちません。

所蔵品ガイドや教育プログラムに共通するのは、ガイドスタッフの「参加者に寄り添い、言葉を引き出す」という姿勢です。対話を通して鑑賞者自身の気づきや解釈を引き出すこの方法は、一方的な解説では得られない豊かな鑑賞体験を与えてくれます。「作品が身近に感じられた」「絵が全く違うように見えてきた」「他の人の意見を聞くのが楽しい」といった参加者のコメントが、本書にもたくさん紹介されています。東京国立近代美術館のギャラリーでは、ガイドスタッフによって、小さなドラマが日々生み出されているのです。

来館者とコレクションの良き出会いのために、常に努力と協力を惜しまないガイドスタッフのみなさんに感謝し、創立60周年となる今年、記録集を刊行することとなりました。東近美（トーキン）でトークするその姿から『トーキング・トーキンビ』と名付けた本書が、美術館やボランティア活動に携わる方々にも役立つこととなれば幸いです。

2012年３月
東京国立近代美術館

ガイドスタッフができるまで

新しい普及プログラムの担い手

導入

ガイドスタッフが誕生した背景には、2001 年の独立行政法人化と、2002 年の創立 50 周年を機に行われた大改装があります。リニュアルオープンして展示面積が約 1.5 倍になった所蔵品ギャラリーで、どのような教育普及事業を行うか。改装前に行っていた月に 1 回の研究員ギャラリートークより、親しみやすく参加しやすい解説プログラムはできないだろうか。このように検討していた折、文化庁から生涯学習ボランティア事業推進の呼びかけがあり、解説ボランティアを導入することが決まりました。そして、2002 年 4 月から 6 月にわたり、解説ボランティアのいる美術館・博物館にヒアリングを行い*、目的や活動詳細、募集と選考、研修や例会、専用ルームの有無や日程の調整方法、保険などの実務事項に数多くの教示をいただき、導入体制を整えました。その後 2002 年秋の募集を経て、2003 年 5 月より活動を開始し、現在に至ります。

＊ヒアリングに際し、江戸東京博物館、川村記念美術館、埼玉県立近代美術館、東京国立博物館、東京都現代美術館、名古屋市美術館より協力を得ました。

募集

定期的な募集ではありません。欠員が出た時に補充募集をしています。毎日の所蔵品ガイドを含むガイド活動をローテーションしていける人数を 40 名程度と考え、現在のところこれを維持しています。これまで 4 回の募集をし、のべ 439 人の応募をいただきました。

応募条件は年齢 (20 歳以上) と全 7 回の養成研修に参加できることです。応募用紙には、学歴、職歴、顔写真の記載欄はありません。

募集要項

募集要項は館内に置くほか、ホームページにも掲載する

選考

書類選考と面接を通過した方が養成研修生となります。

募集要項には、ガイドスタッフは「美術館と来館者との架け橋」であると記載しています。

審査基準は、活動へ対する意欲、コミュニケーション能力、自発的な学習意欲などですが、最も重要視したのが「架け橋としての役割」を認識できる人です。知識を披露するだけの自己満足に終わるのではなく、常に来館者と同じ目線に立って多くを分かち合える、ホスピタリティーを持てる人を採用したいと考えています。

館長の声

当時の河合隼雄文化庁長官が提唱した文化ボランティアを先んじて導入したのが東近美のガイドスタッフ制度でした。当初の関係者の苦労はもちろん、スタッフの方々の熱意や向学心と教育普及担当のフォローとが相まって着実な成果を上げています。故河合長官ならきっといつもの軽妙な駄洒落で大いに褒めて下さるに違いありません。

加茂川幸夫 館長

登録

ガイドスタッフとして登録後、ガイドスタッフ証が授与されます。任期は設けていませんが、2 年ごとに登録を更新しています。登録後、美術館の負担でボランティア保険に加入しています。

養成研修

書類選考と面接を通った養成研修生は、数ヶ月かけて計 7 回にわたる研修に参加します。養成研修の内容は主に、当館研究員による所蔵作品についての概説と、ガイドの実践トレーニングです。特に後者については、レクチャーと実践を繰り返し、きめ細かに指導します。

研修生の課題は、所蔵作品と近代日本美術について知るとともに、対話による鑑賞の意義を理解し、コミュニケーションを重視した手法を身につけることです。研修を終え、所蔵品ガイドを担当する時、ガイドスタッフは、どの作品をどのようなテーマで語るかを自分で考えなければなりません。知識に裏打ちされ、かつオリジナルなトークを展開するためには、欠かせない研修です。

研修生全員が、トークをする側とされる側を経験する

養成研修スケジュール

＊3 期生の場合（2008 年）　　はガイドの実践トレーニング

	1	2	3	4	5	6	7
	1 月 12 日	1 月 26 日	2 月 9 日	2 月 23 日	3 月 8 日	4 月 5 日	4 月 15 日〜19 日
13:00	ガイダンス 当館概要 「ガイドスタッフ活動について」	展示室での来館者対応 1 障がい者対応 展示室での来館者対応2 車椅子実習 アイマスク体験	概説3 「戦中・戦後の美術」	概説4 「50・60年代の美術」	概説5 「70年以降の美術」	概説6 「版画」	ギャラリートーク 修了発表
14:00	美術情報の調べ方、 ライブラリの 使い方	「接客・緊急時対応」	課題1 ギャラリートーク 発表 研修生を 参加者にして 作品前で実演し、 指導を受ける	「鑑賞教育について」	課題2 ギャラリートーク 発表	概説7 「写真」	3作品を組み合わせた ギャラリートークを 修了試験とする
15:00	概説1 「明治・大正期の 美術」	概説2 「昭和戦前期の美術」		子ども対象の モデルトーク体験 グループワーク		修了トーク 個別相談	
16:00	課題1説明 明治〜戦後までの 作品1点を選び、 トークプランを 作成する	課題1の個別相談 トークプランを チェックし、 発表にそなえる	課題2説明 現代の作品を 1 点選び、 トークプランを 作成する	課題2の個別相談 トークプランのチェック	修了トーク 課題説明		
16:30	資料ガイダンス				発声法		
17:00	懇親会						

ガイドスタッフの 活動内容

**毎日の所蔵品ガイドを中心に、
コレクションと来館者をつなぐさまざまな活動を行う**

＊全員が参加するもの
・所蔵品ガイド ⇒ p.8
・例会
・フォローアップ研修

＊その時々に募集し、有志が実施するもの
・ハイライトツアー ⇒ p.11
・スクールプログラム ⇒ p.12
・生涯学習団体等への解説
・子どもプログラム ⇒ p.24
・その他、他館ボランティアとの交流、自主勉強会など

例会

所蔵作品展会期の最初の土曜日に例会日を設定しています。ガイドスタッフ全員が顔を合わせる大切な日です。

タイムテーブル

14:00～15:00　研究員による所蔵品ガイド
来館者とともにガイドスタッフも参加します。

15:00～17:00　例会
教育普及室からのお知らせ、ガイドスタッフから出た議題を話し合います。

17:00～18:00　研究員による展示ポイント解説
閉館後に行います。

所蔵品ギャラリーには、1万点ほどのコレクションから選ばれた約200点の作品が展示されています。年間約5回の展示替えのたびに、ガイドスタッフはコレクションについて学びます。

世話人

所蔵作品展の会期ごとに、ガイドスタッフの中から各回2名の世話人を互選しています。世話人は所蔵品ガイドの担当日を調整し、スケジュール表を作成します。また世話人は、例会の主宰や、美術館スタッフとの連絡調整なども行います。

美術課長の声

急遽立ち上げが決まったガイドスタッフ。他館の事例の調査から始め、館内の制度や規則の整備、募集、面接、決定と、すべてが待ったなしでした。研修として行った全10回の講座も手探りで、講義と講義の間の休憩時間にあわてて資料を作るような綱渡りもたびたび。このバタバタぶり、1期生のみなさんは知っていてさりげなく見守ってくださっていたのかも知れません。初めてのトーク実習では、声も脚も震えて、なんていう方がけっこういらしたこと、昨日のことのように思い出します。

蔵屋美香 美術課長
（ガイドスタッフ発足当時の教育・普及係長）

活動費

ガイドや例会への参加に対し、1日1000円の活動費を支給しています。活動費を支給することとしたのは、ガイドスタッフが担当するガイドやプログラムは、美術館が依頼する重要な仕事であることを、ガイドスタッフも美術館も認識する必要があると考えたからです。

日誌

担当した所蔵品ガイドの様子は日誌に記録し、メンバー内で情報を共有しています。これまでのガイドの全てがつまっている日誌は、ガイドスタッフの宝です。日誌を読めば参加者の反応や感想がわかり、仲間のガイドの工夫を知ることができます。以前は、ガイドの様子は美術館に来て日誌ファイルを読まないとわかりませんでしたが、2010年4月から日誌をブログ(非公開)化したことで、自宅からでも所蔵品ガイドの状況を把握できるようになりました。

ブログ化にあたっては、まずトライアルメンバーを募り、2ヶ月のトライアル期間を設けて、本格導入に向けての課題をクリアしました。ブログにはコメントを書く欄があり、参加した仲間によるコメントを読むことができます。自分では気付かなかったことや、新たな発見も得られると好評です。

特典

所蔵作品展や企画展は無料で観覧できます。また、各企画展招待券やカタログの進呈、資料用コピーの無料化、ミュージアムショップの割引などの特典があります。

メール

円滑な活動を行うための通信手段として、メールやメーリングリストを活用しています。

教育普及室⇔ガイドスタッフ
お知らせ、団体解説のトーカー募集など

世話人⇔ガイドスタッフ
スケジューリングなど

ガイドスタッフ同士
情報交換や所蔵作品に関する質問などの話題

ガイドスタッフ間で解決できない専門的な質問は、教育普及室を通して研究員に確認します。回答はメーリングリストで報告し、皆で共有しています。

フォローアップ研修

養成研修とは別に、自己研修をバックアップする意味で、年に2回程度、美術館がフォローアップ研修を行います。研修内容は、実技研修や、各分野の専門家を講師に迎えた講義、日頃のガイドを振り返るためのワールドカフェ方式のワークショップなどさまざまです。

2003年度	2003年11月15日	日本画の技法と材料	古田亮 中嶋壽子 (MOMAT ガイドスタッフ)
	2004年2月28日	こどもの発達と鑑賞	岸本雅行 (中央区立坂本小学校教諭) 武藤篤美 (坂戸市立浅羽野中学校教諭)
2004年度	2004年11月13日	写真の鑑賞について	増田玲
	2005年2月19日	彫刻鋳造について	櫻井淳一 (櫻井美術鋳造代表取締役) 村山万介 (台東区立朝倉彫塑館学芸員)
2006年度	2006年6月3日	大原美術館の教育普及プログラムについて	柳沢秀行 （大原美術館学芸課長・プログラムコーディネーター）
2007年度	2007年6月9日	小中学校の美術教育 ー学校での子どもたちー	西村徳行 (筑波大学附属小学校教諭) 浜脇みどり (豊島区立千登勢橋中学校教諭)
2008年度	2008年3月9日	株式会社クサカベ絵具工場見学	引率：藤田百合
	2008年3月29日	油彩画の技法と材料	藤田百合
	2008年11月　8日 2008年11月13日	収蔵庫見学	中村麗子 蔵屋美香
	2009年3月15日	コレクション講義 「フランシス・ベーコン」	保坂健二朗
2009年度	2009年10月24日	視覚障がい者への鑑賞サポート	太田好泰、山口里佳子、長澤伸子、大内秋子 (NPO エイブル・アート・ジャパン)
2010年度	2010年12月25日	ワールドカフェ 「所蔵品ガイドをよりよくするために」	進行：一條彰子
2011年度	2011年5月21日	コピアートペーパー　ワークショップ	浅見俊哉 (アーティスト、八潮市立八條中学校教諭)
	2011年10月15日	A:「作品の貸出について」 B:「西美の所蔵作品の概説 」 ＊国立西洋美術館でのボランティア研修に参加	A: 箱守栄一（美術品リスクコンサルタント) B: 幸福輝 (国立西洋美術館上席主任研究員)

ガイドスタッフルーム大公開

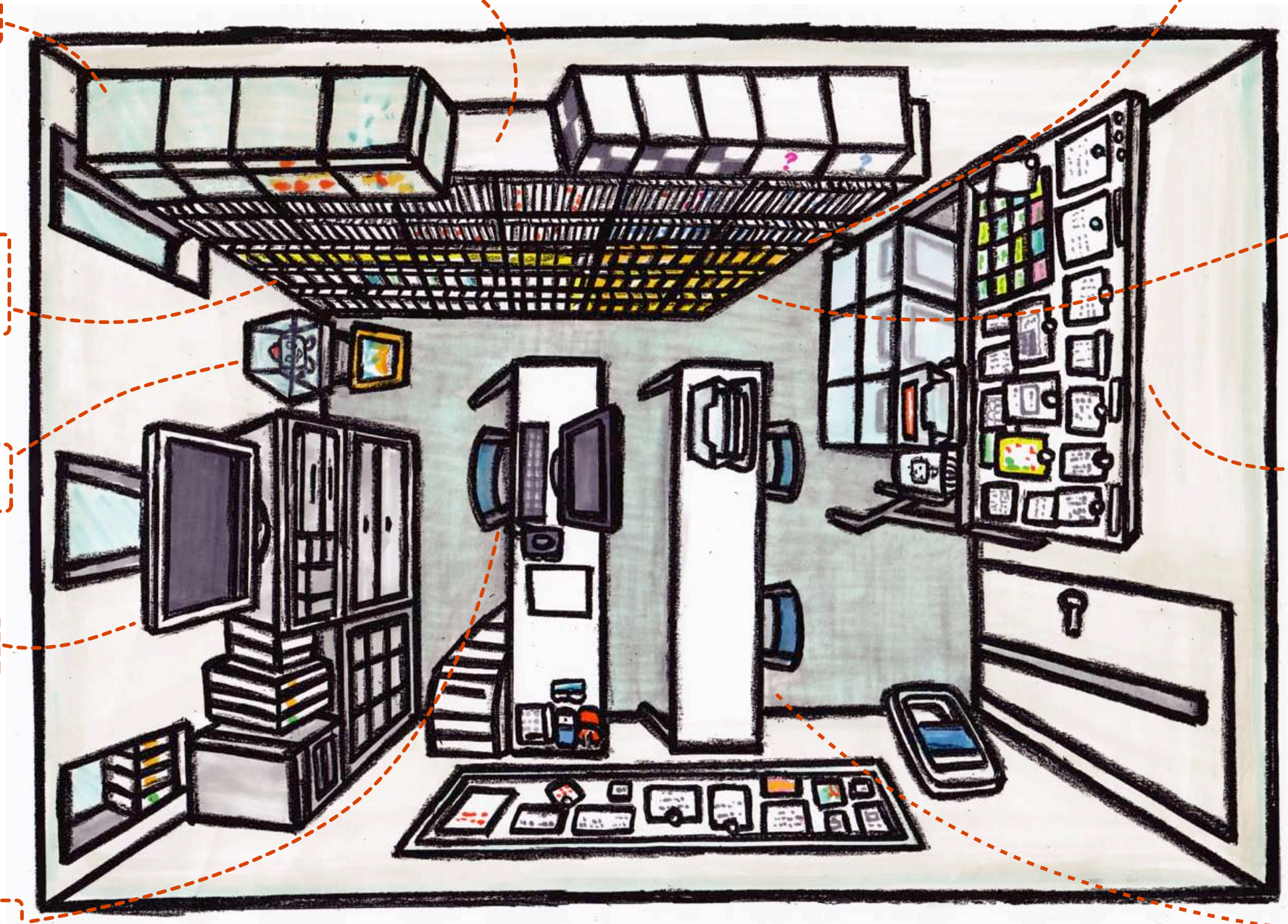
**準備、休憩、勉強、打ち合わせ、
情報交換ができる、ホームベースのような部屋**

コレクションに関連した図書が約500冊！貸出もできます。退会したガイドスタッフの寄贈書や、当館から配布するカタログで構成されています。

当初は司書資格を持っているガイドスタッフが中心となり、ルーム図書の分類や整理を行ってきました。今では世話人の仕事となり、ガイドスタッフ全員が図書整理に携わるようになっています。図書番号の入力作業、貸出ラベル貼りなども行っています。

所蔵作品について調べ、皆で共有できるように自主的に集めた資料は、作家ごとにファイルしています。

「夏休み！こども美術館」のための材料箱。



ひとり１個の「個人ボックス」が並びます。配布物を入れるなど、私書箱のように使われています。

2003年からの所蔵品ガイドの日誌が保存されています。ガイドスタッフの宝です！

ガイドスタッフのキャラクター、「モマたん」の3D模型。

美術館からのお知らせや、ガイドスタッフ同士の情報交換ができる掲示板。

所蔵品関係の記録などをみんなで見るTVとDVD。

ここで日誌を書きます。

開館日は準備をしたり、お昼をとったり、ミーティングをします。